

議案1の意見交換内容

市田

交流会自体は財団主催ではあるが、開催の案内が行き届いてない部分がある。
周知を財団だけに頼らず、何かしらのアプローチを考える必要がある。
SNS活用や関係者の紹介に加え、福祉事業者へのアプローチは口コミも効果的ではないか。

諏訪

福祉事業者は千葉県高齢者福祉施設協会から情報を得ている。
主に社会福祉法人で構成されており、大小問わず、在宅やグループホーム等も含まれる。
加盟事業者に情報を共有してもらうのが良いのではないか。

市田

HPを見ると研修やイベントの案内も充実している。掲載依頼はできないか。

諏訪

知人もいるため、協会のトップを紹介してもらうことは可能。
高齢者福祉課を経由する方法もあるが、直接話を持っていくのが早いのではないか。

市田

福祉関連企業を増やすためには、どうすれば良いのか。
企業は何を見て情報収集を行っているのか分からない
産学連携に繋がるような企業に来てもらわなければ意味がない。
産学連携の窓口はIMOであるのならば、協力を仰ぐ手もあるのではないか。

兪

IMOは確かに産学連携の情報は持っており、過去にはIMOを介しての実績もある。

市田

IMOは銀行とも積極的に連携している。特に千葉銀行は独自の補助金もあり、産学連携を積極的に推し進めているように感じられる。

兪

IMOは産学連携に加え、科学研究費の獲得促進の管轄もしている。
その辺りの情報共有も行っており、千葉県千葉市に限らず、首都圏の企業とも情報をやり取りしている。

ビジネス交流会の参加人数が増えた場合に支障はあるのか。

吉岡

仮に集客が増えた場合は、財団の会議室、松韻会館では広さ的に厳しい。
けやき会館で行うこともできるので、人数が増える場合には会場の変更等で対応。

市田

交流会の時期はいつ頃を考えているのか。

吉岡

これから決めていくことだが、千葉市役所の会議室を使おうとすると、数も限られているため、早めに予約に動かないといけない。
生涯学習センターも会場候補の1つ。

兪

デザインとの共催も検討事項。

千葉大学のデザインは、中小企業と、墨田キャンパスを拠点として問題調査や課題解決を目指している。介護支援のテーマに限定して、共同で開催していくことも選択肢。

吉岡

産学のデザイン案件は急激に増えていて、中には介護関連の案件も含まれているため、そこ連携するのも一案。

兪

課題等を整理して、技術的な部分に繋がられるニーズを探していきたい。

市田

デザインで課題解決に取り組んだ、介護向けの実績等も聞きたいのではないか。千葉大での実績を用いることはできないか。

吉岡

実装につながる案件も出てきている。

福祉事業を開業したい方は、課金の仕方や情報交換のシステムを開発する等、ビジネススキームを開発するため、非常に多面的な課題を解決していく必要がある。

市田

ビジネスモデル全体を設計するような話は、介護事業者も興味があるのではないかと。ぜひ関心がある方に聞いてもらえるようにしたい。

吉岡

ビジネス交流会の情報発信をどのようにすべきか。

需要に合っていない部分があり、モノづくり中心の介護ビジネス事業者は少ない。

ソフトウェア・仕組みづくりを行いたい事業者が多いように見受けられ、そういう方々とはミスマッチがある。そのギャップを埋めていくことは一つの方法。

また、協会や行政の福祉局へのアクセスは重要。そういう方々が集まる場合は行政が主導しているため、そういう場に参加して発信していくのも効果的かもしれない。

介護事業者はコロナ等の影響もあり多忙。その為各テーマを万遍なくやるよりも、ポイント絞ってやることも一考の余地あり。

兪理事長のショールーム構想はセンシング技術、データ技術等先進技術が使われる。交流会の場で他の分野にも応用できることが伝えられれば、可能性は広がる。介護技術の応用実例があれば、介護者も分かりやすいのではないかと。

令和5年度は4つのビジネス交流会を予定している。

補助金申請関係、ドローン関係、農業と福祉事業（農福連携）、コンソーシアムの産学連携。

現状、産学連携の実態はどうなっているのか。（申請一覧を確認。内採択は6割程度）

- ・千葉大学との産学連携が非常に多い。
- ・デザイン関連の案件が非常に増えており、何年か継続していく中で、徐々に課題解決を図っていく。
- ・コンソーシアム案件は4件。
- ・亥鼻の創薬関連は、治験で商品化まで時間がかかるため、財団が支援するものとして相応しいかは異論もある。

残りは

- ・経営資金の調達に関して申請してくる。
- ・共同研究の方向性が明確で、共同研究の成果が割と短期間で出る。

企業が半々程度。

コンソーシアムに絡む案件をもっと増やし、共同研究に結び付けたい。

ただ、実際に上市まで到達した企業は多い訳ではない。

兪

産学連携の実績アピールが不足しているかもしれない。

市田

ショールーム構想を利用した共同研究のPRを行いたい。「産学官民」

吉岡

集まった人が連携して活動を行っていく体制を作り、シーズの持っている魅力や引き出しが沢山あると伝えることが重要。

兪

一部の参加者については、個人的な繋がりで紹介はしたもの、最終的には他の方の活動を見た上で入会に至っている。活動内容をしっかりと見てもらえるようにしたい。

吉岡

新規会員勧誘シナリオ

ホームページ→関係人脈作り→交流会の場に参画して認知→加入に結び付く
デザインの関係はトライアルをやることで、共同研究が増えてきている。ショールーム構想も活用しながら、研究の前段階のものがあれば、その後の研究に繋がりやすいのでは。

兪

ショールーム構想は少しずつ進めていき、ホームページで情報を公開していきたい。
ショールームを活用すれば、入口として入りやすいのではないか。

吉岡

色々と意見交換をしたが、そろそろ今年のビジネス交流会をどうするのかまとめた。

兪

交流会周知の方法を確実に改善する必要があるが、共催にするかどうかは引き続き検討。

市田

場所の都合もあるため、時期はそろそろ決めた方が良くはないか。

兪

1～2月は入試時期と被るため厳しい。第4Qなら3月が良い。

岩井

科学フェスタ、産業交流展（10月頃開催）で周知するには11月以降が良いのではないか。

吉岡

10月前に詳細が決まっていないと、周知に活用できない。

分割してやるかどうかにより負担は変わってくる。

また、福祉法人の方が集まってくる場で情報を周知することもできる。

以上を踏まえると、7月には大筋の方向性を決める必要があるのではないか。

兪

7月の理事会で方向性を決めていきたい。

岩井

周知については財団HP・SNSで既に行っている。

更に母数を増やすには、他の関係団体に協力してもらうのが一番効果的ではないか。

吉岡

福祉団体は前述の通りとして、事業者側にそういう団体があるのだろうか。

千葉市に限定してしまうと非常に少ない。

市田

他にも千葉産業人クラブや商工会を活用して宣伝することも可能。

産業交流展での周知は必ず行いたい、科学フェスタは市民向けイベントということもあり、効果は薄いかもしれない。

吉岡

Medtecも利用しているが、県内企業はそこまで多くない。東京都等の領域拡大も検討したいが、市内企業ではないので支援できないというジレンマも。

市田

東京も産学連携は余り盛んではなく、埼玉・神奈川・茨城の方が盛んなイメージはある。

良い企業が見つければ、千葉市に引っ張ってきてはどうか。

兪

IMOとは近日中に意見交換を行い、コンソーシアムの活動について話し合う予定。

結果は後日お知らせする。

引き続き議論を行い、7月の理事会で大筋を決めることとしたい。